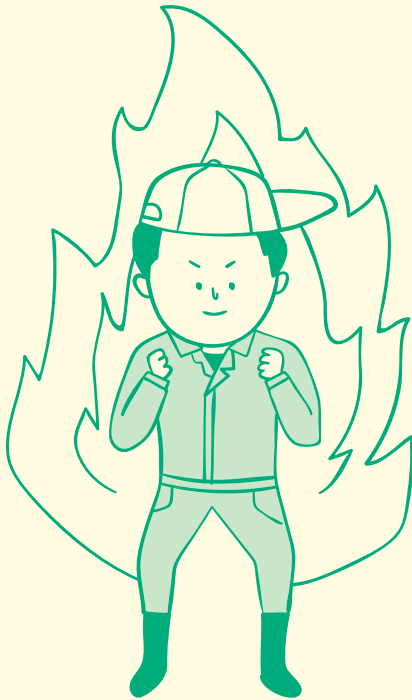


本気で農家に
なりたい人を



厚真町は全力で
サポートします

厚真町で農業を始めませんか

北海道南西部の太平洋に面する厚真町は、農業を基幹産業とする人口約4,700人の小さな町です。それでも、子育て支援や住環境の整備、起業者への支援に力を入れていることから移住者が増えていて、最近では、転出者より転入者が多い「人口の社会増」の町として、少しでも注目されています。

農業のまちとして、高齢化や後継者不足を解消するためにも、新規就農をサポートする体制を整えています。本気で農業に挑戦したい方は、ぜひ一度ご相談ください。

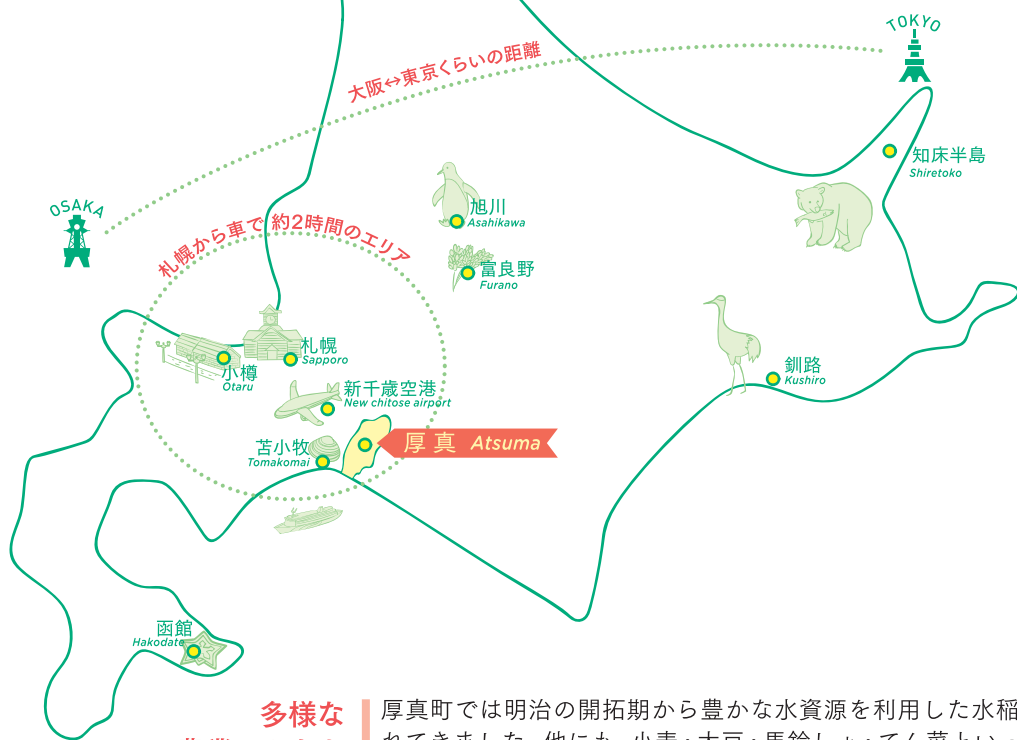
恵まれた交通アクセス

新千歳空港まで車で35分、札幌までは90分。町内にフェリーターミナルもあり、陸・海・空すべての交通アクセスに恵まれています。

苫小牧市まで 車で40分

新千歳空港まで 車で35分

札幌市まで 車で90分



多様な農業のかたち

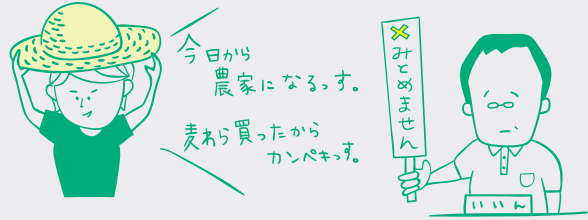
厚真町では明治の開拓期から豊かな水資源を利用した水稲栽培が行われてきました。他にも、小麦・大豆・馬鈴しょ・てん菜といった北海道型の畑作、ほうれん草や花などの施設園芸、肉牛・酪農・豚・鶏・めん羊などの畜産も営まれています。特産のハスカップ(ベリーの一つ)は、栽培面積日本一を誇ります。

このように多様な農業が行われている厚真町だからこそ、伝統や文化の強い制約を受けることなく、あなたの「やりたい農業」が実現できるかもしれません。

もちろん気候や資金面のハードルが高い作物もありますが、目標に向けた現実的な計画を立て、サポートしていきます。

農家になる!

そのためには...



どんなにやる気があっても、潤沢な資金を用意できても、未経験の方がすぐに農業を始めることはできません。農地法により農業委員会から「一定以上の農業技術がある」と認められなければ農地の売買や賃借ができないからです。農業委員会に認められるには、3年程度(※1)の農業研修を受けなければなりません。

研修先を自分で探して就農することも可能ですが、就農までの道のりは決して簡単なものではありません。厚真町では「農業担い手育成センター」を開設し、「地域おこし協力隊」などの制度を活用した農業研修中の費用サポートや、研修専用農場などの環境整備を行っています。また、就農時の補助金や融資制度など、より現実的に就農をサポートしています。

(※1)市町村により異なります。

農家への道 Case01

自分でなんとかする!

研修を申し込む

求人情報や知り合いの紹介などで研修させてもらえる農家を探します。

親方の指導を受ける

研修先の「親方流」の農業を学びます。多様な農業を経験する機会は少ないかもしれません。

貯蓄を切り崩す

研修生として給料がもらえる場合もありますが、無給の場合は蓄えが必要です。就農時にかかる費用のために、できるだけ資金は残しておきたいところです。

農地の情報を収集して 農地の所有者と直接交渉する

一番の苦勞は農地探しです。条件の合う土地が見つければよいのですが、タイミングが難しいところです。

経営計画を作成して 農業委員会から認定を受ける

農業経営の概要や経営規模・農業所得・生産方式・経営管理などについての目標を定めて審査してもらいます。

研修先を 探す

研修する

研修中の 費用

農地を 探す

就農する

農家への道 Case02

厚真町の就農サポートを受ける!

担い手研修農場を利用する

研修専用の農場があり利用期間は農業研修とみなされます。

専門家の指導を受ける

地元の農業に詳しいアドバイザーが常駐しているので幅広い知識を学べます。様々な地元農家での手伝い兼研修も。

生活費や備品購入費の助成を受ける

月額20万円の報償費と活動費、福利厚生費などが最大3年間助成されます。

年間400万円×3年間=最大1,200万円!!

※地域おこし協力隊制度を活用する場合

担い手育成センターに 農地の情報を提供してもらう

担い手育成センターが農地の空き状況を把握し、研修生の条件に合わせた農地のあっせんを行います。

資金の借入れや各種手続きを サポートしてもらう

担い手育成センターが相談窓口となって、就農時に必要な手続きや、経営計画の作成をお手伝いします。



長く険しい道りになるかもしれません



無理・無駄のない
堅実な就農への道

Best practice
オススメ

厚真町の 就農サポート



01 農業技術習得のサポート

独立就農するために、まずは農業の知識と経験が必要です。これまで農業に携わったことのない方が立派な農家になれるように、農業の基本から学びます。

厚真町担い手研修農場



担い手研修農場は農業研修生の専用農場です。ほうれん草やイチゴなどの施設野菜、大根やブロッコリーなどの露地野菜を実際に栽培しています。

土づくりやビニルハウスの組み立てといった農業の基本から、収穫した作物の出荷まで、広く農業の現場を経験することができます。

農業に必要な設備が整っています。
農作業機の使い方も習います。



春



施設の準備



ほ場整備



種まき・育苗・定植

夏 秋



露地栽培（大根）



水耕栽培（イチゴ）



果樹（ハスカップ）



ハウス栽培（ほうれん草）



出荷準備

冬



確定申告などの勉強会



土壌診断センター見学



除雪

経験豊富なアドバイザー



アドバイザーには農協のOBや厚真の農業事情に詳しい人材を配置しています。作物の栽培についてはもちろん、営農計画や融資制度などの農業経営に関する指導も行います。

地元農家での研修



研修農場で栽培していない作物を栽培する農家や繁忙期の農家で作業を手伝い、研修させてもらいます。多くの地元の農家と面識を持つことができます。

02 資金面のサポート

研修中の生活費や就農準備など農家になるためにはお金がかかります。様々な制度を活用して資金面のサポートを行います。厚真町独自の融資制度もあります。

研修中

▶ 地域おこし協力隊・農業支援員

期間 最長3年

内容 報償費(20万円/月)、活動費助成(住宅家賃、活動車両維持・燃料費、作業着など)、福利厚生費助成(健康保険料・年金保険料の2分の1相当額)

▶ 農業次世代人材投資資金(準備型)※旧青年就農給付金

期間 最長2年

内容 最大150万円/年

※就農予定時期の年齢が45歳未満を対象

就農時

▶ 厚真町担い手育成夢資金

就農5年以内の新規就農者の機械導入などに対する無利子融資

融資額 最大240万円(最大120万円償還免除)

▶ 新規就農者支援対策事業

45歳未満で就農5年以内の新規就農者の農地取得や機械導入などの費用を補助

補助額 最大100万円

▶ 農業次世代人材投資資金(経営開始型)※旧青年就農給付金

就農後の経営確立を支援

期間 最長5年

内容 最大150万円/年

※就農予定時期の年齢が45歳未満を対象

ほかにも
いろいろ!

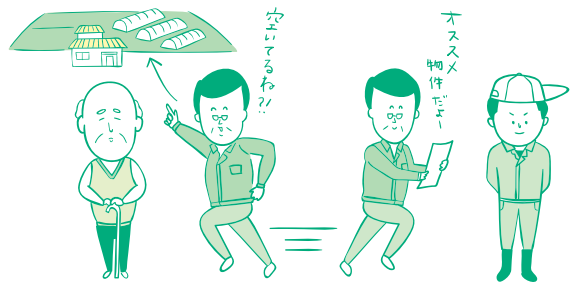
・大型特殊免許取得支援(道担い手センター) ・農家研修受入体制支援(道担い手センター)
・青年等就農資金(公庫) ・経営体育成強化資金(公庫)

03 農地取得のサポート

農業研修を経て、いざ農家になろうとしても農地がなければ作物を栽培できません。担い手育成センターが農地探しをお手伝いします。

離農や後継者不足により使用していない農地があっても、一般的な不動産と違い、情報が手軽に検索できる仕組みが現状は充実していません。また、先祖から受け継いだ大切な土地が見ず知らずの人の手に渡ることに難色を示す場合もあります。

担い手育成センターが町内の農地の情報を収集し、研修生と農地の所有者の条件のマッチングや紹介(顔つなぎ)を行います。



04 就農後のサポート

研修が終わり無事に就農してからも、農業経営は様々な課題にぶつかることでしょう。就農後も担い手育成センターが技術指導や営農相談を受け付けています。

土地が変われば栽培方法も変わります。研修で教わった通りに作業しているはずなのに、作物が思うように育たないこともあります。また、資金の借り入れや生産規模の拡大、法人化、6次産業化、従業員の雇用といった就農してからのお悩みについても、総合的な農業の相談窓口としてご活用ください。



現役研修生に聞く 研修レポート



かくち わたる
角地 渉さん

東京都出身。前職は内装業。
平成28年に34歳で厚真町に移住。地域おこし協力隊制度を活用して農業研修を受け、現在3年目。来春からはほうれん草とピメントで独立営農する予定。

1年目 1st season

妻と子連れて移住、研修スタート

“ 妻が北海道出身ということもあり、いつか北海道で暮らしたいと考えていました。息子も物心がついてきて、自然が豊かな環境で子育てをしたいという想いもあり移住を決意しました。 ”

町内の農家で農作業を学ぶ

“ これまで農業に携わったことがなく、全くの素人でした。スーパーで売っている野菜を作ることがこんなに大変だとは思いませんでした。農業の奥深さに魅了されました。 ”

よろしく
お願いします。



地元農家に馴染みのあるアドバイザーの紹介があったので、お互いの距離感を縮めやすかったです。

2年目 2nd season

担い手研修農場にてほうれん草の栽培

“ 1年目は農家さんの指示を受けて行動していましたが、研修農場では自分たちの手で商品として出荷する野菜を育てなければなりません。休日も交代で管理するなど責任感が増しました。 ”

農地探し・栽培作物の決定

“ 担い手センターから空き農地の情報を教えてもらいました。面積や条件なども僕にピッタリでしたのでお話を進めてもらいました。また、できるだけ初期投資を抑えるために中古資材を積極的に集めました。就農後に栽培する作物はほうれん草とピメントに決めました。ピメントは町内で栽培している方が少ないこと、パプリカのような見た目が気に入りました。 ”



使わなくなったビニルハウスを「解体するのなら持って行ってもいいよ」と言ってくれる方もいたり資材集めはたくさんの方に世話になりました。



研修先の農家さん

3年目 3rd season

担い手研修農場にてピメントの栽培

“ 担い手研修農場のビニルハウス1棟をピメント栽培に使わせてもらいました。アドバイザーと一緒に土壌や肥料などの様々な可能性を検証することができました。初めてピメントを市場に出荷できた時は、胸にこみ上げるものがありました。 ”

本格的な独立準備

“ 研修終了と同時に栽培を開始できるように、農地と住宅の整備を行いました。予定より大きな出費になってしまいましたが様々な支援制度を活用して、何とかかなりそうです。住宅も古く、快適に住むためには手直しが必要でしたが内装工事は自分で施したので安く済みました。前職の経験を遺憾なく発揮しました(笑)。来春からは1人の農業者として営農しなければなりません。不安がないわけではありませんが、3年間でしっかり準備させてもらったので、精一杯頑張りたいです。 ”

いよいよ就農
頑張ります！



新規就農の 先輩たち

厚真町では平成23年から地域おこし協力隊制度を活用した就農サポートを行ってきました。平成30年度までに5名が就農し、それぞれの農業を営んでいます。



移住前の居住地



就農時の家族構成



ほうれん草

あ だ ち ひ ろ し
安達 博司さん

〔移住〕平成23年 〔就農〕平成25年

📍 埼玉県 🏠 妻・子(2人)

移住のきっかけは、家族と一緒に過ごす時間が欲しかったこと。現在は12棟のビニルハウスでほうれん草を栽培し、優良生産者として表彰されるまでに。オクラや小松菜などの栽培にも挑戦中。



養鶏(採卵鶏)

こ ば や し れ ん
小林 廉さん

〔移住〕平成23年 〔就農〕平成25年

📍 札幌市 🏠 独身

平飼い養鶏を志し、就農地を探していた時に厚真町の就農サポートを知り迷わず応募。現在は生産する卵のほとんどを消費者へ直売する。資金が乏しかったため、軌道に乗せるまでに苦労した。



水 稲

お か じ ま し ゅ う し
岡嶋 修司さん

〔移住〕平成24年 〔就農〕平成27年

📍 愛知県 🏠 妻・子(2人)

設備投資や農地取得などの面から新規就農にはハードルが高いとされる水稻農家になりたくて移住。地域の方の協力を得られて夢を叶えることができた。自治会活動などには積極的に参加する。



ほうれん草

か ね こ よ し ぶ ね
金子 義宗さん

〔移住〕平成24年 〔就農〕平成26年

📍 札幌市 🏠 妻・子

新規就農の前例があるほうれん草農家に。就農地の土壌に合う栽培方法を確立することに苦戦した。冬場は手芸用の小麦のドライフラワーを生産するなど、創意工夫を凝らした農業を展開する予定。



か ぼ ち ゃ

な か じ ま ゆ う た
中島 佑太さん

〔移住〕平成26年 〔就農〕平成29年

📍 札幌市 🏠 妻・子(2人)

研修終了間近まで就農地が決まらなかったが、最終的には愛犬と暮らせる理想的な住宅と農地を取得できた。かぼちゃを主としてほうれん草やハスカップなどバランスのよい多品目栽培に奮闘中。

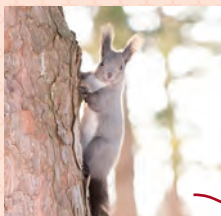
地域に馴染むことが

一番重要かもしれない説

自治会(町内会)のお祭りや環境整備活動などに積極的に参加するなどして、地域の方と親しくなることで、役場や担い手育成センターが知らない情報や、困った時の協力を得られるかもしれません。

農業は特にその土地に根差した産業です。未永く暮らしていくために、地域住民と移住者のお互いが幸せになれる関係を築くことが大切です。





暮らしやすいまち

ATSUMA



こぶしの湯あつま



認定こども園・子育て支援センター

認定こども園が町内に2つあり、待機児童はいません。小学校入学前のお子さんやその保護者が気軽に安心して利用できる子育て支援センターも併設しています。

子育て支援保育料還元

こども園の保育料の2割をポイントで還元します。

医療費還元

乳幼児の初診時一部負担金や、小学生から高校生までの入院・通院にかかった医療費自己負担額相当分をポイントで還元します。

高校生通学費等還元

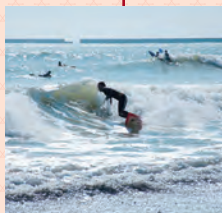
町外の高校に通う高校生の通学費や下宿代等の一部として1カ月あたり5,000ポイント還元します。

民間賃貸住宅支援

町内の月額56,000円以上の民間賃貸住宅に入居中の子どもを扶養している世帯に1カ月あたり最大5,000ポイント還元します。



還元されたポイントは1ポイント=1円で町内のお買い物に使用できます。



浜厚真海岸

分譲地 (フォーラムビレッジ)



子育て支援住宅

理想の田舎暮らしを実現

様々なロケーションの住宅地をお求めやすい価格で分譲しています。対象の分譲地に住宅を建築する場合、最大200万円を助成します。

子育て支援住宅

入居時に小学生以下の扶養家族がいる移住者のための町営住宅があります。

空き家バンク

空き家の情報を登録し、公開しています。最大100万円の改修費用助成制度があります。

空き家活用資金の助成・貸付

市街化調整区域や都市計画区域外にある空き家を取得・改修を行い10年以上居住する場合、最大250万円の助成や低金利の貸付を行います。

ちょっと暮らし

生活必需品一式がそろった一戸建て住宅でお試し移住体験ができます。

FAQ

よくある質問

Q 地域おこし協力隊とは？

A 人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その地域に定住・定着をしてもらうための制度です。

厚真町では、地域おこし協力隊の任期中に農業研修を受けて農業を学び、最終的には地域の担い手として就農を目指すことを目的としています。
地域おこし協力隊の活動には、地域の祭りへの参加や自治会活動の手伝いなど、農業以外の活動も含まれ、それらが地域に溶け込むきっかけにもなります。

Q 地域おこし協力隊になりたいのですが…

A 募集要項は以下の通りです。
受付期間が決まっているのでご注意ください。

主な条件

- ①原則として満20歳以上、満40歳以下の方
 - ②3大都市圏などの都市地域に在住しており、厚真町に移住できる方
 - ③住民と共に地域活動に取り組む意欲と実行力がある方
 - ④普通自動車免許証(A T限定不可)および自家用車を確保している方
- ※年齢が41歳以上の方については要相談

選考スケジュール

募集時期	毎年10月～12月中旬頃
1次選考(書類審査)	12月中旬
2次選考(面接試験)	1月中旬(厚真町で実施)
選考結果通知	1月下旬
委嘱(採用)	4月1日以降

活動内容

- 目標とする就農形態により以下のどちらかを選択
- ①ほうれん草、イチゴなど…主に研修農場で研修
 - ②水稻、畑作、酪農、畜産など…主に地元農家で研修
- ※このほか、住民生活支援等の地域活動や地域のお祭りへの参加など

待遇等

活動時間等	1日7時間45分、週休2日 ※作業ローテーションにより変動
報酬費	月額20万円(満24歳は月額19万円、満23歳以下は月額18万円) 扶養家族がいる場合、家族協力金(月額8,000円)を別途支給
福利厚生費助成	健康保険料及び年金保険料の2分の1相当額を助成
活動費助成	住宅家賃相当分、活動車両維持・燃料費、作業道具、作業着などを対象
年次休暇	10日(1年間)
その他	雇用契約を結ばないことから雇用保険は非加入

Q 農家になるには何が必要ですか？**A** 若さ

新規就農に年齢制限はありませんが、就農時の年齢(研修開始から2～3年後を目途)が45歳未満であることが一つの区切りとなっています。国の農業次世代人材投資資金(旧青年就農給付金)の要件が、「就農時の年齢が45歳未満」であるためです。支援施策がなければ金銭面で大きなハンデとなりますが、資金と体力が十分にあれば45歳以上の方でも就農することは可能です。

A 家族

一緒に農業をしてくれる家族がいた方が安心です。作物を栽培する場合、繁忙期と閑散期の波があり、繁忙期は労働力が必要です。家族の労働力があれば人件費の削減につながります。もちろん、独身者も就農・農業経営することは可能です。

A 資金

就農するためには、農地や農機具などの取得費用、経営が安定するまでの生活費など、商工業での起業と同じく資金が必要で、多ければ多いほど有利です。貯蓄がほとんどない状態からスタートした例もありますが、相当な苦勞が伴ったようです。

A やる気とチャレンジ精神

研修で農業を学ぶとはいえ、同じ野菜でも栽培方法は人それぞれ。新しい技術を導入したり、作物を増やしたりと、就農してからも勉強は続きます。また、大工仕事や車両整備などを自分で行わなければならないことも。途中でリタイヤしない強い意志が必要です。「田舎でのんびり農業でも…」といったイメージで就農してしまうと、苦しい生活が待っています。

A コミュニケーション能力

農村で暮らすには地域住民とのコミュニケーションが不可欠です。特に農業を営むことは、その土地に根差した生活となります。地域の行事への参加や、ご近所付き合いも大切です。

Q どんな作物でも栽培できますか？

A 作物によりハードルが上がります。

厚真町で新規就農者に勧めているのは、都市や港に近い地の利を活かした、ほうれん草やトマトなどの施設野菜、かぼちゃ、ブロッコリーなど露地野菜、花き(カーネーション、マムなど)です。

稲作や畑作で就農する事も可能ですが、大規模な農地や農業機械が必要となりますので、それなりの初期投資が必要です。特に稲作の場合、田は畑よりも土地代が高く、田植えや稲刈りなど作業に応じた機械が必要となります。

厚真町の特産のハスカップも、収穫期が7月の2～3週間程度と短く、年間を通しての収入の確保が難しいことから、基本的には他の作物と組み合わせた経営が必須です。

Q 畜産・酪農で参入することはできますか？

A 可能ですが、課題は多いかもしれません。

まずは資金の問題があります。北海道では自分で家畜のエサを生産することでコストを下げているますが、そのための広い牧草地を確保するための資金に加え、家畜を飼育するための畜舎や機械の購入資金など、野菜に比べ初期投資が必要です。

一般的には、国の無利子資金を活用する場合がありますが、その借金を背負うリスクを覚悟の上で開始しなければなりません。

畜産農家・酪農家に研修に入り、離農をされる方の経営をそのまま引き継ぐ居抜売買(専門的には第三者継承)という方法もありますが、離農される方のタイミングがあります。当然必ず就農できる保証もないので慎重な判断が必要です。

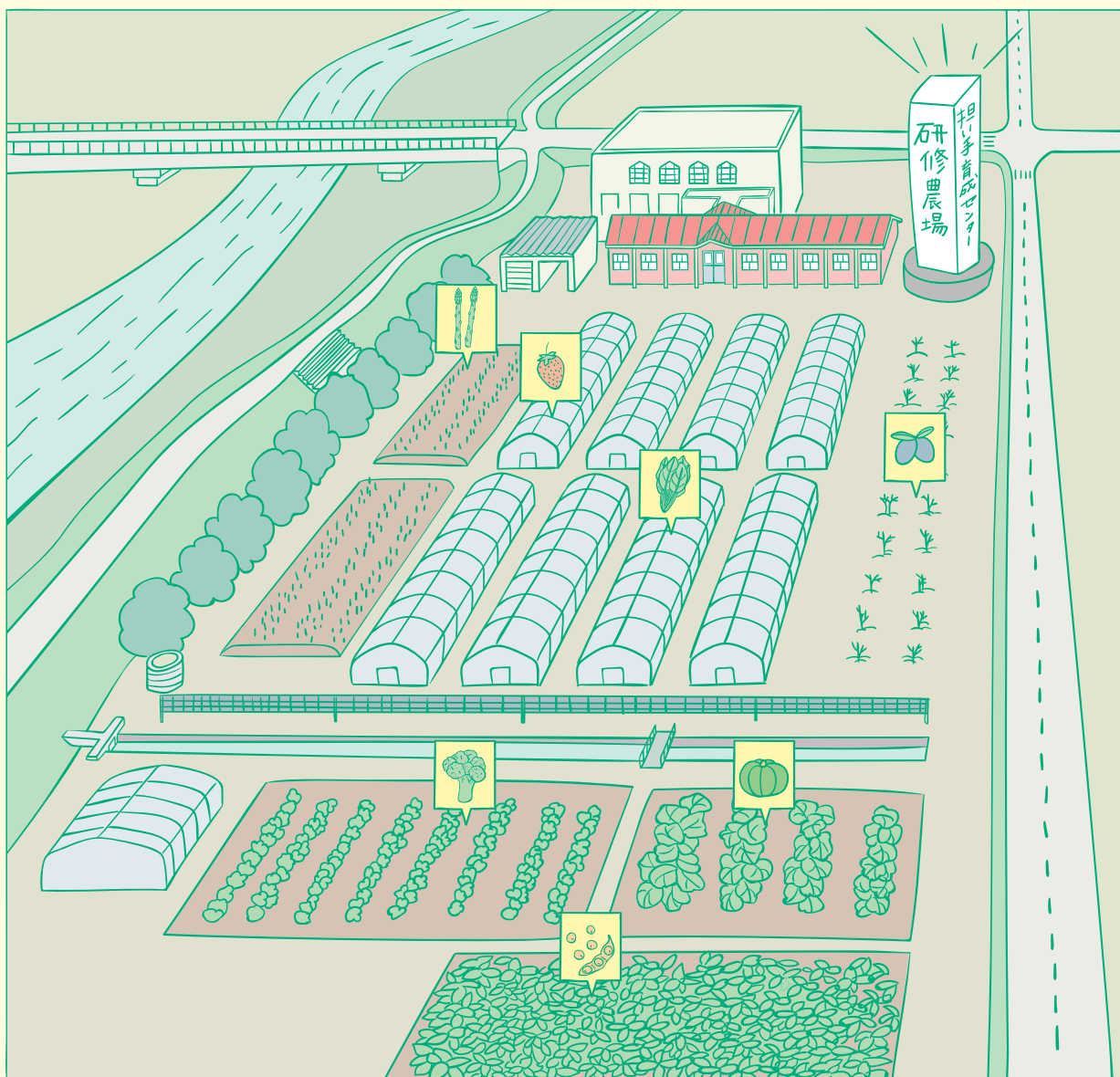
Q 農地や住宅に空きはありますか？

A 条件とタイミングによります。

後継者不足などの理由で、離農する農家が増えています。しかしながら、「農家の離農＝引っ越し」ではないため、住宅とセットで空いている農地が豊富にあるわけではありません。

農地を手放しても住宅にはそのまま住み続ける場合が多く、農地は近隣の担い手などが購入・賃貸借し、その後、住宅が空いた時には、今度は農地が空かないという状態になることもあります。

厚真町農業担い手育成センターが農地や住宅の状況を把握し、研修生の希望とすり合わせ、就農地を見つけるお手伝いをします。



お問い合わせ

厚真町産業経済課農林業グループ

〒059-1692 北海道勇払郡厚真町京町120番地
TEL:0145-27-2419〔直通〕 FAX:0145-27-3944
E-mail:nousei@town.atsuma.lg.jp

厚真町農業担い手育成センター
〔担い手研修農場〕

〒059-1747 北海道勇払郡厚真町字富野311-1
TEL:0145-28-2207 FAX:0145-28-3021

<http://town.atsuma.lg.jp>